

平成 22
(2010) 年 11 月 15 日掲載

魔都上海突撃ルポ

上海万博議員視察訪問団

事務局長 水野しんじ



上海万博中国館前で
「尖閣諸島日本領土」
を示す筆者(色調は復元)

上海リニア

尖閣諸島問題で、重慶をはじめ中国3都市で大規模な反日デモが起きている10月16日、小松とよ吉さいたま市議を団長とする「上海万博視察訪問団」一行10名は、上海浦東国際空港に降り立った。

ここから一行は約30キロ先の龍陽路駅まで、ギネスにも登録された地上で走る世界で一番早い乗り物、上海磁浮列車(上海リニアモーターカー)を体験。

飛行機に乗るときのような持ち物検査を受けて乗車すると、車内の椅子は安っぽいプラスチック製。発車と同時に助走の間もなく、

いきなり100km超え!そしてあっという間に、最高速度の430kmに。車窓からはこのリニア乗客に見せるためかのように立ち並ぶ高級マンションが次々に飛んで行く。

リニアモーターカーは磁気浮上式なので、静かに走るのかと思いきや、上海リニアの車内は騒音と揺れが激しく、乗り心地は都電並み。しかし、たった7分間で浦和と上野間と同じ距離を走破。

上海リニアの轟音は、この路線開通のために民家6,000軒を強制退去させたブルドーザーのエンジン音に聞こえた。

超高層ビルと「おまる」

上海の新しい名所としてそびえ立つのが「上海環球金融中心」。日本の森ビルによる中国で3棟目のビル開発なので「上海森ビル」とも、ビルの形状がせん抜きに

似ているので「せん抜きビル」とも呼ばれている。

高さ492mで、延べ床面積は東京の「六本木ヒルズ森タワー」と同一の約38万㎡。総事業費は1250億円。

世界一高い展望台から上海の都市を一望できるわけだが、上海の空は日本では死語となった「スモッグ」でどんよりと覆われている。反日の国のど真ん中に日本のビルが建っているという事実は痛快だ。この巨大ビルの横道を行くと、旧日本人街がある。現地ガイドさんの話によると、この一帯は未だに下水道が完備されず、排便は「おまる」で済ませているという。暖房は「練炭」に頼っている。

超高層ビルが立ち並ぶ近未来都市の裏側では「おまる」と「練炭」生活というのが異形の発展を遂げる中国の現実である。

上海万博狂想曲



上海森ビル
2010年
上海万博
は、大阪万
博の入場者
6400万
中国

人を超えることが命題だったが、目標通り7300万人を超えた。地元関係者によると、上海市は市民1人につき入場券(160元、日本円で2200円)と交通カード(100元分)を何と1000万枚ただでばらまいたという。

史上最大を力づくで演出する中国。万博の砂上の楼閣の裏側では、人間らしい生活ができない貧困層が8千万人(チャイナ・デーリー紙)もいる。この人々に、入場券分の手当てをすべきだろう。

時あたかも、中国各地では政府公認の「反日やらせデモ」が頻発。私は万博会場で、小さな抗議として「尖閣諸島 日本領土」というカードを掲げた。

万博会場を圧する真っ赤な中国館は、「人間みな平等」の、社会主義国家建設を夢見た毛沢東が、現在の中国を見て流した血の涙に染まっていたようだ。

中日友好病院

訪問団人の一人が、見学中に転倒して頭を打ってしまった。救急車が来るまでに30分もかかった。その間、多くの中国人や観光客が、負傷者を世話してくれた。何の愛想もなくぶつきらばうに世話をし、黙って去る中国人の姿に、上海で初めての清々しさを感じた。救急車は有料で約1万円かかる。

運ばれた病院は、地上20階建ての威容を誇る「上海市清安区中心医療国際センター」という国家総合病院。設備は近代的で清潔。

驚いたことに院内各所に「中日友好」の掛け軸が掲げられ、担当医師が流ちょうな日本語で患者の診断結果を説明してくれる。

上海市内には日本語が通用する中日友好病院が30カ所もある。中には全員が日本人医師の病院（上海国際クリニック）や日本語が院内の共通語という病院（上海平和クリニック）もある。

少なくとも医療面では、反日的ムードは一切なく、むしろ親日的である。かつて中国の農村で人民のために献身的医療をおこなった

「はだしの医者」の精神を引き継ぐ、上海の医療関係者には素直に敬意を表し感謝する。

マナー向上運動

上半身裸やパジャマ姿で外を歩くな、鼻毛は短く切れ、ところかまわずたんを吐くな、立小便をするな、タバコの吸殻をポイ捨てするな、ごみはゴミ箱へ入れろ、食堂では大声で騒ぐな、乗車するときには並べ、街頭で小便をするな、わいせつ行為やギャンブル・麻薬をやるな、人に向かってくしゃみをするな、手鼻をかむな、便所で用を足したら水を流せ、便所で手を洗ったらハンカチで拭け、……。これは小学生に向けての注意ではない。現在の上海市民に対する指導である。日本ではこんなことをいちいち教えなくとも、子どもでも守っている。

中国共産党は「中央精神文明建設指導委員会」なるマナー向上の政府機関まで作って、

中国人に「常識」を強制している。上海では「マナー教本」を500万部印刷し、全戸配布した。

確かに上海の町にはゴミが少ない。市民の意識が向上したのかと思いきや、3万名にも及ぶ清掃服務員が、ポイ捨てをするそばから掃除しているのだ。

旅の最終日。上海市内の中華レストランで食事を済ませた後、地元ガイドさんが、「このトイレはきたないので使わないで。空港まで40分なので、そこまで我慢して下さい」と発言。全員があざんとした。

中国共産党が進めるマナー向上運動。これを教え込むべきは、世界規模でマナー違反を繰り返す中国政府である。

胡錦濤国家主席を筆頭に中国首脳たちには次のように指導すればいい。「他の国の領土を侵害したり、人権を弾圧してはいけません」



「東京ビッグサイト」パクリの上海万博「中国館」



「東京ビッグサイト」



上海万博「中国館」